「公園・緑地の整備による安全で暮らしやすい街づくり」

（１）はじめに

私は、公園・緑地の整備をすると安全で暮らしやすくなると思う。そこで、公園・緑地の整備による安全で暮らしやすい国土づくりの提案をする。まず、公園面積の海外比較をすると、グラフ（図－１）に示すように日本の全国平均は 8.9 ㎡／人で海外よりも劣る。公園をつくるには土地が必要だ。しかし、都心では買収できる用地自体が少ない。買収できたとしても、膨大な予算があるわけではなく、広い用地の取得が困難である。その為、公園は必要なところにはつくられない。

どのように整備されているかというと、市街地に確保できない緑や公園を周辺地域に無理やり確保する。そして、そこが市街化すると、また、その外側に公園をつくって数字のうえでの公園面積を増加させる。このようないたちごっこのような公園整備が続いている。

確かに、公園や緑地は整備しなければいけない。しかし、このような整備をこれからも続けていっていいのだろうか。公園を整備するとしても、市民に利用されなかったり、利用しにくかったりしてはいけない。それでは、どのように整備すればいいのであろうか。

（２）公園・緑地の効果について

まず、公園がもたらす効果について説明する。公園は、大まかに 5 つの効果をもたらす。その効果とは、①うるおいや癒しの効果、②健康づくりの効果、③ペット等を運動させる効果、④生き甲斐開拓や学習等の効果、⑤防災の効果である。この中で、防災の効果は大きい。話が古いかもしれないが、1923 年の関東大震災の時、公園や緑地等が防火壁として大きな役割を果たし、火災の拡大を防いだ。当時の記録によれば、上野公園をはじめとする 15 の公園緑地等で約 157 万人の避難者を収容したとある。このように、防災の効果は必要不可欠である。

（３）周辺地域における公園・緑地の整備について

では、周辺地域に整備する際には、国や自治体が独自で進めて整備していっていいのだろうか。私は、「市民に便利に心地よく使ってもらうこと」が一番大切だと思う。

利用者には様々なニーズがある。にぎやかに遊びたい子供もいれば、静かにくつろぎたいお年寄りなど。それは、公園の立地条件や、周辺住宅の世帯構成などによって様々だが、より多くの意見を受け入れることが大切だ。

公園を利用する人たちのニーズを把握する方法としては次のような方法がある。

一つ目に、ワークショップ。これは、できれば調査、設計段階から、管理運営まで全体を通して行えることが望ましく、その活動を通して「自分たちの公園」という意識も生まれる。二つ目に、聞き取り、アンケート。これは、できるだけ様々な階層、特性を持った

利用者に広く行われることが望ましい。障害を持った人には、健常と言われる人には思いもよらないニーズがある。三つ目に、公園目安箱を設置。これは、どんな公園にしてほしいか紙に書いて箱に入れてもらう。利用者の素直な意見を聞くことができる。

以上のような方法を用いて、国、自治体、市民が協力しあって公園を整備するといいものができる。

また、クレームもニーズのひとつだ。公園は様々な利用者が自由に活動できる反面、利用形態によっては利用者同士が対立する場面も少なくない。また、管理者の「禁止行為」をめぐり利用者と管理者がぶつかることもある。どんな会社にも対立やクレームは存在する。クレームがあるということは、そこにニーズがあるからだ。対立を恐れていては進歩はない。まずは話し合う機会を持つことが大切だ。

そして、絶対に忘れてはいけないことは、鳥や昆虫たちにもニーズがあるということだ。公園は私たち人間だけが利用するわけではない。多くの植物や鳥、昆虫たちもたくさん棲んでいる。人間の視点では何でもない樹木や水溜りが、鳥にとっては貴重な食餌木であったり、とんぼの産卵場所であったりする。鳥や虫たちの意見を聞くことはできないが、植物や鳥や昆虫たちにも視点を向ける必要がある。

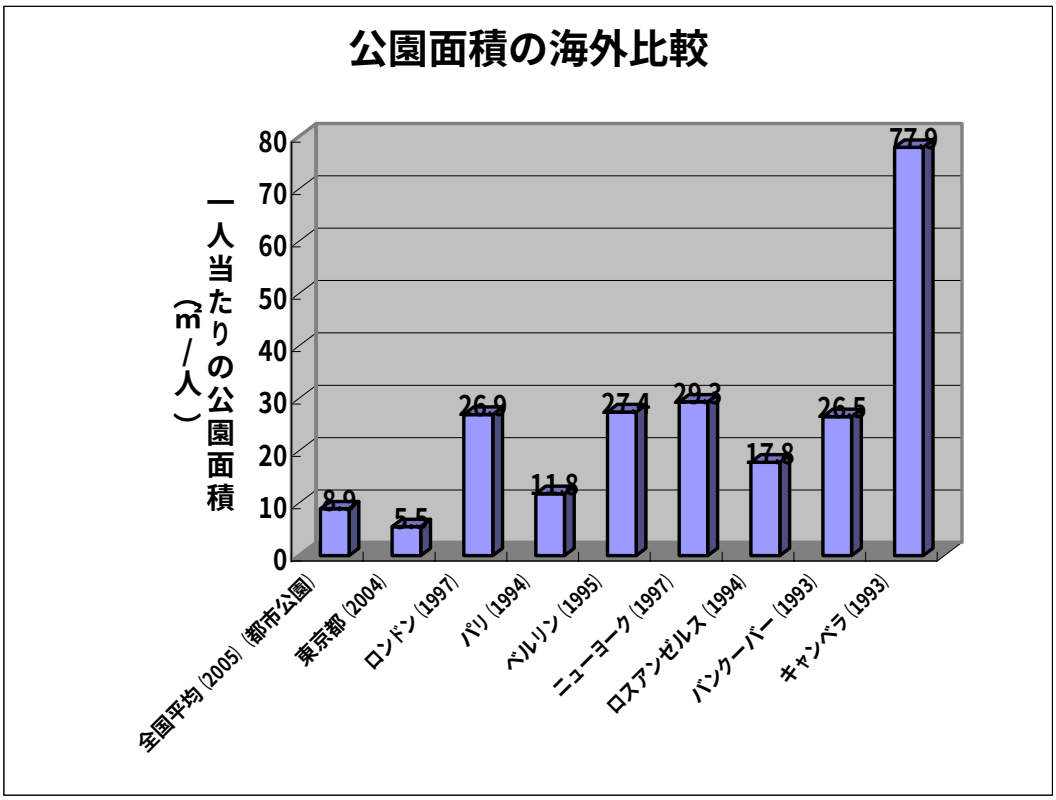
公園は、もともと自然を破壊して、また人の力で自然をつくる。自然を破壊する時は、そこに存在している動植物を保護して整備を進めていくべきである。

（４）都心における公園・緑地の整備について

一方、都心はどのようにしていくべきかというと、土地がないので公園はあまりつくれない。そこで、避難所を整備していく必要がある。このときも、公園を整備する時と同様に、ニーズに応えて市民と一緒になって整備していくべきである。都心では、緑被率［ある地域又は地区における緑地（被）面積の占める割合］だけをみると、結構な割合がある。それは、個人の緑地なども入っているからだ。都心は、ヒートアイランド現象などあるので緑地をもっと増やさなければならない。都心における緑の効用は、気候緩和、大気浄化、災害防止、野生生物保護、生活環境向上、レクリエーション利用など多岐にわたる。

（５）最後に

以上述べたようなことを行いつつ整備をすると、市民にとって、生物にとって、地球にとってよりよい公園・緑地の整備ができる。また、私たちの生活はより安全になるだろう。



図－１「公園面積の海外比較」

（国土交通省・東京都より）

参考：・まちがいだらけの公園づくり：それでも公園をつくる理由 / 青木宏一郎著

・公園のユニバーサルデザインマニュアル：人と自然にやさしい公園をめざして / 都市緑化技術開発機構公園緑地バリアフリー共同研究会編